



みなみ区図書館だより

2022年1月発行

No.240

～Since 2000～

くらしのなかに図書館を

発行 新潟市立白根図書館 新潟市南区田中383 電話 (025) 372-5510 FAX (025) 372-5540



明けましておめでとうございます。



コロナ禍直前に飼い始めたわんこが、奇しくもおうち時間の慰めになって早2年近くに。皆さんはどんなおうち時間を過ごされていますか。図書館では、おうち時間充実に向けた新着図書が皆さんをお待ちしています。今年もどうぞよろしくお願いいたします。（白根図書館長）



蔵書点検にともなう休館のお知らせ

白根図書館

1月19日(水)～1月26日(水)



月潟図書館

2月2日(水)～2月9日(水)



- 図書・雑誌は返却ポストに返すことができます。
- AV（視聴覚）資料や新潟市立図書館以外の図書館から借り受けた資料は、返却ポストへは返せません。開館中に窓口へお返しく下さい。
- 蔵書点検期間中は、電話による予約、貸出の延長、調査相談等はお受けできません。

蔵書点検は、行方不明の本がないか、傷んでいる本がないか、他の図書館の本が紛れていないか等を確認する作業です。ご理解とご協力をお願いします。



たくさんのご参加ありがとうございました！！



秋の読書週間事業報告

(10/23~11/30)



「絵本だいすき!~どうぶついろいろ~」

投票結果発表

白根図書館

1位 11ひきのねこ

馬場のぼる/作, こぐま社 『11ひきのねこ』ほか

2位 ころわん

間所ひさこ/作, 黒井健/絵, ひさかたチャイルド

『ゆきのひのころわん』ほか

3位 14ひきのねずみ

いわむらかずお/作, 童心社 『14ひきのひっこし』ほか



月潟図書館

1位 ぐりとぐら

中川李枝子/作, 大村百合子/絵, 福音館書店 『ぐりとぐら』ほか

2位 うさこちゃん

ディック・ブルーナ/文・絵, いしいももこ/訳, 福音館書店

『ちいさなうさこちゃん』ほか

3位 ねずみくん

なかえよしを/作, 上野紀子/絵, ポプラ社 『ねずみくんのチョコキ』ほか



「ぶっくぶくろう」貸出点数

白根図書館 171点 月潟図書館 25点



「わくわくスタンプラリー」参加者

白根図書館 329名 月潟図書館 149名

☆クリスマスおはなし会報告☆

白根図書館



絵本やストーリーテリング、手遊びを楽しみました。

クリスマスや冬をテーマにした絵本や、エプロンシアターを楽しみました。

月潟図書館



「おうちで図書館」コーナー

「新しい生活様式」も世間にすっかり定着、その中で気兼ねなく楽しめるのが読書です。

白根図書館では自宅での読書タイムの充実、ビジネススキルアップの本などを中心とした「おうちで図書館」コーナーを設置しています。



写真集

漢方

方言

料理



白根図書館休館日

毎週金曜日・毎月第1水曜日
・蔵書点検期間(1/19~1/26)

読書会 毎月第3日曜日

1/16(日) ルーム2 午後2時~
2/20(日) ルーム2 午後2時~
3/20(日) ルーム2 午後2時~

おはなしのじかん 毎週土曜日

絵本のよみかたり

午後2時~

ストーリーテリング ※おはなしをかたります。

午後2時30分~

◇白根図書館 3/31(木)までの行事◇

おはなしかご例会

毎月第2・第4土曜日

会場は図書館にお問い合わせください。
※白根図書館で活動している読み聞かせボランティアグループの勉強会です。
いつでも見学においでください。

赤ちゃんタイム

毎週水・土曜日

午前11時~午後2時30分

11月の来館者数…5,646人

12月の来館者数…6,694人



『50 とよばれたトキ』



危ない！！・・・巢の外に産み落とされた卵は、奇跡的に新米飼育員の帽子で受け止められました。佐渡トキ保護センターで50番目に生まれたヒナなので、呼び名は「50」。この本では、50を中心にしたトキの生態が優しく細やかに綴られています。飼育の過程では、ヒナが大きくなる喜びもあれば、事故や病気で失われる辛さもあります。たくさん生まれた中の一羽であっても、かけがえのない一羽なのです。飼育員たちはそのたびに悲嘆を飲み込んで再発防止に取り組んできました。

2021年現在、野生下のトキは400羽を超え、佐渡の大空を舞っています。(浅妻)



小野智美 / 著
羽鳥書店

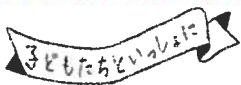


『エルマーのぼうけん』

9さいの男の子エルマーは、どうぶつ島のこわいどうぶつたちにいじめられている、りゅうの子どもをたすけだすため、ひとりでぼうけんにでかけます。でも、エルマーの武器(ぶき)は、ブラシやリボン、ペロペロキャンディーなど、とてもつかえそうもないものばかり。エルマーはぶじにりゅうをたすけだすことができるのでしょうか。エルマーのお話は、ほかにも『エルマーとりゅう』『エルマーと16ぴきのりゅう』があります。(中山)



ルース・スタイルス・ガネット / さく
ルース・クリスマン・ガネット / え
わたなべ しげお / やく 福音館書店



『わらしべちょうじゃ』

このわらしべちょうじゃ。主人公が、とあることをきっかけに、とんとん拍子！あれよあれよという間に幸運をGETするという、ある意味夢物語のようなストーリー。はじめてこの物語に接してから、かなりの年数の人生を経験してきたつもりですが、なかなかこのような機会には恵まれていない…。それでも、ポジティブに人生を送ることで、何かいいことがあるかもしれない。そんなことを、心の片隅にとどめて、日々を丁寧にすごしていけたらと思います。(坂田)



松岡節 / 文
梶山俊夫 / 絵
ひかりのくに

◇月潟図書館 3/31 (木) までの行事◇

月潟図書館休館日

毎週月曜日・毎月第1水曜日・国民の祝日・蔵書点検期間(2/2~2/9)
※月曜日が祝日の場合、火曜日も休館・・・1/11(火)、3/22(火)

赤ちゃんタイム

毎週木曜日 午前10時~正午
場所 / 視聴覚室

おはなしのじかん

毎月第2・4木曜日 午前11時~午前11時30分 場所 / 視聴覚室
毎週土曜日 午前10時30分~午前11時 場所 / 視聴覚室

新潟市立月潟図書館

〒950-1304 新潟市南区月潟1417番地 ■電話 / 025-375-3001 ■FAX / 025-375-1060

味方地区図書館だより

2022年1月

〒950-1294 新潟市南区味方 1544 (味方出張所内) 電話: 025-373-4788

開室時間: 月～金曜日 午前9時～午後5時

土曜日 午前9時～午後3時 (祝日も開室)

※日曜日・祝日・年末年始は休室



★おすすめ図書のご案内★



<児童書>

『捨てないパン屋の挑戦』

井出留美／著
(あかね書房)



<一般書>

『みとりねこ』

有川ひろ／著 (講談社)

20歳を超える猫の浩太は、この家の長男・浩美とずっと一緒でした。今日も今日とて肉球にお醤油を丁寧につけてテーブルクロスに肉球ハンコをペタリ・・・？これにはちゃんとした理由があるのです。

『旅猫リポート』外伝を含む7編を収録。

虫好き・自然大好き・パンが大嫌いだった田村さん。環境問題に興味がありましたが、しかたなくパン職人になります。けれども、モンゴルで羊一頭の命を大切にいただくという暮らしをした経験から、売れ残りのパンを捨てることに疑問を持ちます。環境を守りながら、材料を作る人もパンを作る人も食べる人も「幸せ」になれる方法は？

考えながら迷いながら各国を巡り、店を開いては閉め、自分の生き方を定めた職人のお話です。



<一般書>

『THE やんごとなき雑談』

中村倫也／著
(KADOKAWA)

パリスタ役を演じるのには実はブラックコーヒーが苦手・結婚できていないと焦っている・たいへん自意識過剰と自認する俳優が日々考えていること、家族、学生時代のことをまとめたエッセイ。

図書館・図書室をご利用の皆様へ (お願い)

新型コロナウイルスによる感染症拡大防止のため、以下の点にご協力をお願いいたします。

- ① マスクの着用
- ② 利用前後の手指の消毒
- ③ 他の利用者の方と十分な距離をとる
- ④ 体調が優れない時は来館を控える
- ⑤ 長時間滞在を避ける

現在、一部使用できない座席があります。ご了承ください。



9月の読書会

令和3年9月19日(日)

参加者 2名

『サボテンの花』

『きみが見つける物語 十代のための
新名作 放課後編』他より

宮部 みゆき/著 角川書店

白根図書館
読書会報告
NO.248

～あらすじ～

6年1組の子どもたちは小学校卒業研究に「サボテンの超能力」を研究したいと言い出す。堅物の担任、宮崎先生は猛反対するが、定年間の権藤教頭は、子ども達の好きなようにやらせてみようと言得した。

しかし子ども達は、研究と称して次々に騒動を起こすようになり、権藤教頭は対応に追われることになるが……。

・大人が持っていない感性を子ども達は持っている。

・大人になって思い出すのは、子どもに寄りそってくれた先生だ。

・今から30年以上前の話。作中に出てくるような詰め込み教育は意味がない。自分の頭で考えていくことが大切なのは。子ども達の発想は大人の常識を超えていく。子ども達の発想は大事。

・30年前の子どもの漢字力はびっくりする。

・教頭先生は子ども達のことを考えていて、子ども達に好かれている。





さいき
『債鬼』

うちだひゃっけん
(内田百閒)

月の読書会

令和3年10月17日(日)

参加者2名



◆本の内容

「債鬼」とは借金の取り立てをする人のこと。取り立てる人と取り立てられる人の姿を描いた短編

百閒の作品は随筆とも小説ともとれるものが多いが、この「債鬼」は明らかに創作だ。二人組の借金取りの姿がまるでコントのように描かれていてユーモアがある。「鬼」とあるが憎まれるような人物像ではなく、穏やかでゆるい印象を受ける。

「特別阿房列車」を読むとお金を借りる哲学が書かれていて、「特にこれという理由もなく借金するのがよい」とある。「債鬼」の前に読んでおくと、百閒の借金に対する姿勢がわかって面白い。

内田百閒は非常にたくさんの作品を書いたが、「債鬼」はその中では特に良作というわけではなく凡庸な印象だ。しかしやはり旧仮名づかいで書かれた文章は優雅でよい。

「サラサーテの盤」という短編がある。チゴイネルワイゼンのレコードをめぐる不思議な話だが、このような作品を書くということは百閒はおそらく音楽の素養も相当あったと思われる。



百閒は借金をしている人々より取り立てをしている二人の方に、温かいまなざしをむけているように思われた。取り立ての様子はとてもおおらかに見える。現代の取り立て屋の方がもっと激しいのでは。けっこうな高利貸しなので、おそらく一人や二人取り立てに失敗してもいいのだろう。服装などからみると、この二人はかなり裕福に暮らしているようだ。

百閒は飼っていた猫を題材にした作品（「ノラや」など）も残しているが、百閒に限らず文豪には猫好きが多い。猫と作家は相性が良いのかもしれない。

百閒を題材にしたものというと、黒澤明監督の「まあだだよ」という映画がある。余談だが、先日黒澤明の書いた「初恋」という映画の脚本を読んだが、とても簡潔な文章で読むと絵が浮かんできて面白く感じた。



1・2月の読書会

毎月第3日曜日 午後2時～
会場：白根学習館 ルーム2



★1月16日のテーマ本★

「小僧の神様」
(志賀 直哉/著)

★2月20日のテーマ本★

「壁抜け男」
(マルセル・エーメ/著)

参加者がその場で読みあってから話し合う読書会です。お気軽にご参加ください。

読書会はしろね図書館友の会との実施事業です。

